

最近の刑務所事情と高齢者

岡島利夫

1. 府中刑務所の入口と出口



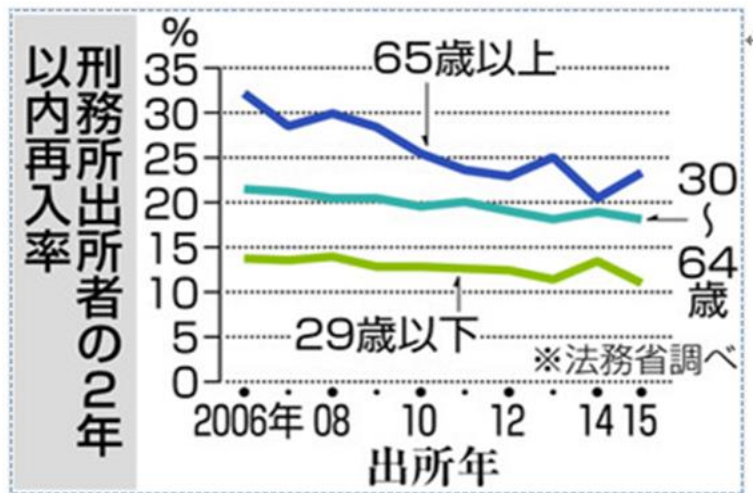
①冒頭左の写真は府中刑務所の入口の写真です。刑務所に入ったことがある人のことを世間では、「前科者」と呼ぶが、これは刑期を終えた人への差別用語かも知れない。私も一度入ったことがある。前科のある人たちにとって、世間の目はまだまだ冷たい。それが高齢者であっても容赦はない。近年、高齢者の再入所率は下がる傾向にあったはずが、このところ V 字回復で上昇傾向に転じて来ている。これは、また刑務所に戻りたいと考えている高齢者が増えてきていることを示している。

②入口があれば出口がある。冒頭右側の写真は出口のところに書かれている注意書きの写真で、いろいろ書いてあるが、端折って言えば、「出所者および出迎え者は出口周辺でたむろしないで、とっとと立ち去れ！」と書いてある。しかし、一部の人は I shall return と思いつつ、取りあえず立ち去るとのことである。

2. 高齢者の再入所率が高い理由

府中刑務所に限らず、各地にある刑務所（参考：因みに埼玉県は全国で唯一、成人用の刑務所がない県）での、高齢者の入所者数はここ数年、増加傾向にある。皆さんご存知のとおり、刑務所は衣食住がタダ、税金もタダ、病気になれば医療費もタダ。それに介護保険料もタダであり、最近、高齢入所者にとり、刑務所は「無料の介護施設化」しているとも言われている。多くの高齢者が刑務所に舞い戻ってくる理由を聞くと、約7～8割の高齢者は、出所後、地元等にもどっても、“地域の人々とのコミュニケーションが取れないからだ”と証言している。家族や地域から見放された孤独な高齢者にとって、刑務所はシャバより、居心地が良いということか。

刑務所再入所、高齢者は23%⁴



平成29年版犯罪白書より⁴

3. 平成29年版の犯罪白書によると、

- ① 28年の刑法犯検挙者のうち65歳以上の**高齢者**は、他の年齢層と比較して最も多い4万6977人で、**全体の20・8%**を占める。
- ② 高齢検挙者の犯罪種別をみると、「暴行・傷害」が20年前と比較して17・4倍になっており、いわゆる“**キレる高齢者**”、高齢者の粗暴化が顕著となっている。
- ③ 刑法犯検挙者数全体の認知件数が減っている中で、高齢者の刑法犯検挙者数は、20年前の約3・7倍に上っている。
- ④ 罪名別構成比では、「万引」が**57・3%**でトップ。「万引以外の窃盗」が15・0%、「暴行・傷害」の12・4%と続く。
- ⑤ 万引については、特に**女性が顕著**で、刑法犯で検挙された**全女性高齢者の80・3%**を占めた。
- ⑥ 刑務所の高齢者率（入所受刑者に占める高齢者の割合）は増加しており、前年から1・5ポイント増の12・2%になった。特に女性の高齢者率は18・1%に上っている。

4. 図書「日本を捨てた男たち（フィリピンに生きる困窮邦人）」

知人のフリー・ジャーナリスト水谷竹秀氏が書いた本で、日本に自分の居所がなく、海外に出たものの、困窮状態に陥っている邦人高齢者が、世界で最も多く存在している国としてフィリピンを挙げ、同地での孤独死を含む、日本人高齢者にかかわる諸問題を紹介している。

以上